

Yamato Welfare Foundation
ヤマト福祉財団

ヤマトグループ賛助会員向け
ニュース(季刊)
発行部数13万部・非売品

2017.01.20 Winter

No.
53

News



第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

障がい者の働く場づくりに
国内外で活躍する情熱家たち



Profile

1955年に日本放送協会入局、日本初の女性テレビカメラマンとして10年間活躍。以後、要職を経て、定年退職後に精神障がい者の自立と社会参加のための活動を始める。
現在、株式会社ストローク代表取締役、NPO法人ストローク会副理事長、全国精神障害者就労支援事業所連合会理事、社会福祉法人NHK厚生文化事業団評議員他。第1回ヤマト福祉財団賞受賞(2000年)

“働く”にそなえる

障害のある人も、当面障害がない人もともに豊かに暮らせる共生社会に向かっている種々の「制度的な枠組み」は確かに大分整ってきました。が、それだけでは十分ではありません。

企業でもどうしても誰もが働きやすい場になるのか、以前より配慮されるようになってきました。でも障害のある人に対して、どこか腫れ物に触るような及び腰なところが気になります。

また、障害のある人の方ではこんなことを言っている採用や処遇に不利ではないかと躊躇(ためら)いがちで、まだまだコミュニケーションが十分とは言いきれない状況です。誰しも経験が違うのですから、最初からスムーズに通じるのは、稀で当然。お互いの見解や感じ方の違いを明らかにしつつ、諦めずに話し合いを重ねていくことで、その関係は深まっていくものではないでしょうか。

そうした中で、私が気になるのは障害の当事者とか、支援者の動きです。いろいろな障害者団体から送られてくるニュース・情報誌などでは差別解消法等の動きについての「法」の解説や「こんな差別や配慮の無さを経験した」という記事はありました。

では、障害を持ちながらも社会の中の一員として普通の暮らしにどう加わって行くのか、より暮らしやすい世の中になるよう自分がどう働きかけるのか、そして支援者は、その時何ができるかという観点から、私は自分が多く関わっている精神障害のある人たちを中心に次のような提案をいたします。

それぞれのハンディはまちまちですが、

- ・若い時に発症しているため、社会的経験が少ない
- ・直ぐには長時間働けない、仕事に長続きしない
- ・服薬し続ける必要からくる種々のハンディがある
- ・病気にかかった経験から、立ち上がるのに時間や支援が必要
- ・こうした状況を打破するのはやはり、何と言っても当事者自身の「ことば」です。自分からのきちっとした情報提供です。例えば、受診日に関することとか、勤務時間についての相談等。同時に自分の関心の分野や企業に役立ちそうな特技等の表明も過不足なく行いたいものです。

働くことにそなえて、仲間と一緒にワークシoppや※SSTのような訓練や実習を、ぜひともお勧めします。工夫してみてください。また支援者からも、「きちんとした自己主張の力は企業からも歓迎されるもの」であることを伝えられることでしょう。

※SST(Social Skills Training の略)：「社会生活技能訓練」や「生活技能訓練」と訳される。

CONTENTS

表紙写真

第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者、奥脇 学さん(右)竹内昌彦さん(左)のお二人が祝賀会の会場にて。

03

第17回ヤマト福祉財団小倉昌男賞
障がい者の働く場づくりに
国内外で活躍する情熱家たち

10

助成先レポートVol.28
(社福)ゆたか福祉会 ワークセンターフレンズ星崎(愛知県名古屋市)
事業を一つに絞り込む勇気。

09

黄金の稲穂が揺れた
自然栽培パーティ、2年目の実り

12

この街で、一緒に生きていく。
障がい者のクロネコDM便配達事業
歩くチカラがいたら、笑顔も言葉も増えていた。



日本障害フォーラムが
推進するイエローリボン
運動に賛同しています。

第17回

ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

障がい者の働く場づくりに
国内外で活躍する情熱家たち

第17回 ヤマト福祉財団小倉昌男賞 贈呈式

主催 公益財団法人ヤマト福祉財団



写真前列左より受賞された奥脇氏令夫人、奥脇 学さん、竹内昌彦さん、竹内氏令夫人、後列左より森下明利ヤマトグループ企業労働組合連合会会長、瀬戸 薫ヤマト福祉財団理事長、山内雅喜ヤマトホールディングス(株)代表取締役社長、長尾 裕ヤマト運輸(株)代表取締役社長



障がい者の仕事づくりや雇用の創出、給料を主とする労働環境の向上に努め、大いなる功績を残された方を毎年2名、表彰する「小倉昌男賞」贈呈式が今年も日本工業倶楽部で催されました。



『僕が内閣総理大臣賞をもらったときよりも嬉しいよ』と應武さんが仰ってくださって、本当に有り難いと思った」と声を震わせた奥脇学さん



「奥脇システムの理念は『私たちと、私たちに関わる人たちが、とてもしあわせと思える社会づくりをめざします』。これを少数ながらきちんと実践していることに非常に感銘を受けました」奥脇さんを推薦した株式会社ダイキンサンライズ 摂津・顧問の應武義郎さん



「竹内昌彦という人を3分、5分で紹介することは逆に難しい。先生の夢を叶えるために、支援者も一丸となってがんばっていききたい」竹内さんを推薦した飛鳥グループ協同組合・専務理事の谷口真吾さん

師走の恒例となった「ヤマト福祉財団小倉昌男賞」の贈呈式が12月9日に執り行われしました。

本年度の受賞者は、大阪府守口市の（有限会社）奥進システム代表取締役の奥脇学さん。そして、岡山県岡山市の（社会福祉法人）岡山ライトハウス理事長の竹内昌彦さんです。

ITで体調の『見える化』に成功

お二人のご功績を、冒頭に挨拶された瀬戸薫理事長は、「奥脇学さんは、ITの会社を経営されて、従業員のうち8割が障がいのある方です。重度の方もいらっしゃいますが、在宅勤務などいろいろな働き方を考えて残業ゼロを堅持されています。

また、精神障がいの方もいらっしゃいますが、体調管理を始めとする日常的なケアや周囲の方の理解が非常に大切で、IT企業らしくきちんとデータベース化して分析し、みんなで支援をしていくという取り組みを進めている点に注目しました。そしてその精神障がい者雇用の経験を踏まえ、『SPI』という就労支援システムを開発されました。50ぐらいの障がい者施設がこれまでに利用されて、その貢献度は非常に高いと思います。この先もITを駆使して、障がい者の支援をしてくれることと期待も込めまして、贈呈したいと思いました」と賛辞を贈りました。

中央アジアの障がい者の

『脱貧困』に貢献

そして、竹内昌彦さんについては「幼少のころ目を悪くされて、小学生のとき完全に失明。それからの苦労は大変なものだったと思います。いじめもはねのけ強くたくましく生きてこられた。そして、地元・岡山ですと盲学校の

教師をなさってきました。全国をまわって講演活動もされて、いじめや自殺の問題をテーマに中学生・高校生らに「強く生きる」と、『一人で生きているわけではない』ということをしつかり教え、生きるための希望や決意を与えてくださっています」と紹介しました。

そして、称賛に値することとして「講演の謝金を貯めて、モンゴル国で視覚障がい者のための職業訓練学校を設立。つぎはキルギス共和国でも学校をつくり、さらに今度は白内障の子どもたちの手術費用を支援しています」と中央アジアの視覚障がい者の職業能力開発と脱貧困への功績を讃えました。

選考委員を代表して今野由梨さんは、財団創設者である小倉昌男・初代理事長と今も同じ思いで選考委員を務めていると語り、「苦勞して開発なさったノウハウはベンチャーにとって財産。軽々に人に渡さないというのが通念ですが、一人でも多くの人に幸せになってもらおうと奥脇さんは全部公開されています。これにはショックを受けました。また竹内さんの、キルギス、モンゴルにまで愛の手を届けるパワーに圧倒されています」と選定理由を補足しました。

日本の福祉発展の推進力に

まず、お二人それぞれの推薦者から受賞者紹介のスピーチをいただきました。その後、瀬戸理事長より雨宮淳氏作のブロンズ像「愛」が正賞として、また賞金100万円が副賞として贈られるとともに、ご苦勞を分かち合っただけでなく、夫人には花束が手渡されました。今年の贈呈式ではお二人のご来賓から祝辞をいただきました。厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課長の朝川智昭さんは、障害保健福祉部長の祝辞を代読。「現在の障



厚生労働省 社会・援護局
障害保健福祉部 企画課長
の朝川智昭さん



消費者庁 前長官で消費者
庁顧問の板東久美子さん



「全国からすごい方々の名
乗りに圧倒されっぱなし。
侃々諤々の議論を経て満
場一致で選びました」選考
委員を代表して、今野由梨
さん



がい福祉は、みなさま方のたゆみないご尽力により築かれてきたものであり、そのお一人お一人の力が、日本の福祉のさらなる発展のための推進力でもあります」と受賞者のみならず全国の福祉活動家を慰労するものでした。

消費者庁顧問 板東久美子さんは「私は視覚障がい者の方のランニングの練習や試合で、伴走をさせていただいています。今回は、岡山ゆかりの竹内様がまさに視覚障がい者として

ご活躍され、私自身岡山出身でござい。今年には障害者差別解消法も施行され、新しいステージに進んだと考えます。受賞者の方々の今まで積み上げられてきた活動、ご活躍に光をあて社会全体に大きな刺激を与えていくことが、非常に重要であると思います」と、裾野の広がりに向けて期待を寄せました。

贈呈式は受賞者両名のスピーチで、8に抜粋）を最後に、今年も閉幕となりました。

句集 まほろば

ヤマト福祉財団小倉昌男賞受賞者を讃えて

花田春兆さんが受賞者に贈られた俳句が1冊の本になりました。各回の受賞者の業績に焦点を当てた俳句の数々は、まるでその場を写し取るかのようです。また、障がい者文学研究者荒井裕樹氏の解説で受賞者を讃える春兆さん自身のお人柄も垣間見える句集となっています。

花田春兆 著／書肆アルス 刊／本体1000円(税別)



お互いに 認め合うことから 新しい発想が生まれる

10月27日、精神障がい者の雇用支援のためのWebシステム SPIS※を開発した奥脇 学さんの会社を訪問しました。

重度身体障がい者がシステム開発リーダーとして活躍する職場

社内は、完全バリアフリーになっていて、一人ひとりPCでプログラミングしています。見

「勤めていた会社から独立したときにそんな会社になりたいと思っていました。自分自身も夜遅くなったりしていたし、有能な女性でも結婚でやめていくところも見てきましたから。」

独立当初から、障がい者施設なども訪ねて障がい者とソフトウェアの業務の可能性を探っていたそうです。

お互いを認め合っていくことで働きやすくなった

社員のみなさんに集まっていたとき、それぞれの様子を説明していただきました。

「これは、受発注管理システムです。うちのシステムは、インターネットで動くWebシステムが特徴です。受発注は、離れたところとのやり取りなので、こんな業務ができます。これは企業間でも利用できるもので、アパレル関連とメーカーさんの取り扱いアイテムもたくさんあるのですが、便利に使ってもらっています。遠隔で操作できるので使い方の指導も私がやる時があります。」

奥脇システムでは、2名の重度身体障がい者がシステム開発リーダーです。当初は2名とも在宅勤務が中心でしたが、今では出社する日の方が多くなり、客先との打ち合わせもこなしているそうです。

「私共も発達障がい者でそれまでは、市役所で働いていました。この会社では、システム開発の業務から実習に来て入社することになりました。」

現在4名が、自分の状態をSPISに日報入力を行っていて、お互いの体調が判るようになっていきます。

また、外部の就労支援者からもアドバイスが入る仕組みとなっています。

「だれでもがフレキシブルに配慮してやっていける環境にしたいので、社内障がいプレゼン“をやっています。本人もカミングアウトしたほうが楽し、周りもどうすればいいのか判りやすいです。」

だれもが認め合うという安心感が職場一杯に広がっていました。

就労困難な人々が働きやすくなる会社をめざして独立

有限会社奥進システムは、大阪市中央区で主に中小企業の業務管理システム、受発注システム、顧客管理システムを開発しています。一見ごく普通の会社のようにみえますが、残業ゼロで、従業員10人中8人が障がい者、2名が子育てや家事に追われて働きづらいシングルマザーという特徴があります。

渡すと車椅子の社員が手に縛り付けたスティックでキーボードを操作していました。

「これはどんなシステムを作っているんですか。」

「これは、受発注管理システムです。うちのシステムは、インターネットで動くWebシステムが特徴です。受発注は、離れたところとのやり取りなので、こんな業務ができます。これは企業間でも利用できるもので、アパレル関連とメーカーさんの取り扱いアイテムもたくさんあるのですが、便利に使ってもらっています。遠隔で操作できるので使い方の指導も私がやる時があります。」



有限会社奥進システム 代表取締役
公益社団法人全国重度障害者
雇用事業所協会 常務理事

奥脇 学さん

略歴

- 1968年 大阪市生まれ
- 1986年 高校卒業後、株式会社日立西部ソフトウェア入社
- 1998年 同社退社。自分の技術力を試し、労働環境を改善するために独立
- 2000年 有限会社奥進システム設立 同社代表取締役就任。シングルマザーの支援施設や障がい者支援施設を回り始める
- 2006年 頸椎損傷による重度身体障がい者、システム開発希望。大阪市職業リハビリセンターより紹介、採用
- 2009年 ひとり親家庭の母親入社、週40時間(うち週1日在宅)勤務開始
- 2010年 内部障がい(人工透析)者1名、精神障がい者1名採用
- 2012年 精神障がい者1名、週35時間勤務で追加採用。精神障がい者就労定着支援システム「SPIS」提供開始
- 2013年 「精神障害者の就労継続支援健康評価システム事業」に「SPIS」が採用
- 2014年 大阪府の「精神・発達障がい者雇用管理普及事業」に「SPIS」が採用
- 2015年 発達障がい者1名、精神障がい者1名 追加採用
- 2016年 発達障がい者 2名採用

設立以来WEBアプリケーションに特化して企業向けシステム開発を受託。延べ220社に納入し、年商6,400万円の実績をあげる。2016年11月現在、社員10名のうち8名が障がい者、2名はシングルマザーとなっている。

※SPIS

自社の精神障がい者の定着のため障がい者本人が日々の体調、業務遂行状況、職場での人間関係などの状況を4段階指標化して記入し、会社の管理者・支援機関・家族がその情報を共有化し、対応できるようにして定着を図るWebシステムです。そのノウハウを大阪府や、全国精神障害者就労支援事業所連合会などの事業として一般に公開し、職場定着に顕著な効果を上げており、精神障がい者雇用未経験の企業でも安心して雇用できるようになりました。2016年8月末現在、50社100人が利用しており、今後もさらにこのシステム利用により我が国の精神障がい者の雇用拡大が期待されています。



生きていてよかったと 思う日がみんな来る — だから・・・

自らの体験を通して、障がい者理解とともに
いじめ防止も呼びかける竹内昌彦さんの
講演活動に同行しました。

「目が見えないと何も怖くてできなくなる。そう思われると非常に残念です。人間、目玉の一つや二つこわれても、そうは諦めてなくていい。食事も普通にできます。ただ、ケーキやてんぶらなど、見た目でおおいそう、おいしくないは判りません。ですが、見えないほうがいい

10月26日 高松市高松東高等学校にて人権講演会が開催され、竹内さんが講師として登壇しました。先生に誘導されてゆっくりと演壇に向かう竹内さんを全校生徒が静かに見守ります。

60年以上の見えない体験から
語れることを

時もある。何が言いたいのかというと、人間、見た目だけでおいしい、まずい——つまり、良い悪いを判断するときどき失敗するぞということなんです。」

差別の体験そしていじめと
命の大切さを呼びかけて

竹内さんは、音声で知らせる時計や電卓、白杖などを取り出し、軽妙なジョークも交えて、視覚障がい者が工夫して暮らしていることを説明した後、点字ブロックが視覚障がい者にとって大切なものであり自転車などを点字ブロックの上に置かないでほしいと生徒に理解を求めました。

そして、自ら子どものころに受けた不条理ないじめを乗り越えた体験から、生徒に呼びかけました。

「自分ひとりの命ではない。お父さん、お母さんの命も抱えて生きている。命を絶つてしまつては、親は夢も希望も失います。一生続くと

自分の将来を見つめる高校生にとって、竹内さんの言葉はとても大きかったようです。

モンゴルのマッサージュスクールやキルギスの視覚障がい者リハビリテーションセンターの建設、貧困により手術を諦めていた視覚障がい児の手術費用の肩代わり。竹内さんが手がけた支援は、すべて講演の謝金やご自身の半生を綴った書籍の売上金で賄われました。

竹内さんの活動は、晴眼者と途上国の視覚障がい者をつなぐ架け橋としてだけでなく、広く人生の過ごし方を伝える活動として多くの人達にその感動を伝えつづけています。

思うから絶望する。けれども、生きていてよかったと思う日がみんな来る。自分も今まで死にたいと思ったことが三度あったけど、やっぱり生きていてよかったと思う日がみんな来た。」

2200回以上の講演から
生まれたもの



社会福祉法人岡山ライトハウス
理事長

竹内 昌彦さん

略歴

- 1945年 2月 父親の赴任先中国天津で生まれる
- 1951年 4月 小学校1年入学
- 1953年 2月 網膜剥離により失明
- 1954年 4月 岡山県立岡山盲学校小学部3年編入。
以後、同校中学部
高等部へ進学
- 1964年11月 パラリンピック東京大会 盲人卓球 優勝
- 1966年 3月 岡山県立岡山盲学校高等部専攻科卒業
あん摩マッサージ指圧師免許、鍼師免許、灸師免許取得
- 1966年 4月 東京教育大学盲学校教員養成課程入学
- 1968年 3月 東京教育大学盲学校教員養成課程卒業
- 1968年 4月 岡山県立岡山盲学校教諭
- 1999年 4月 同校高等部教頭
- 2005年 3月 退職

現在……社会福祉法人岡山ライトハウス 理事長
社会福祉法人岡山県視覚障害者協会 理事
岡山県立岡山盲学校 同窓会会長

著書 「病理学概論」(教科書)
「見えないから見えたもの」(自伝)
「船長の粋な話」(エッセー) ほか

竹内昌彦さんの功績

2200回に上る講演の謝金や書籍売上、映画上映会の収益を元に、発展途上国の視覚障がい者が職を得て貧困から抜け出すしくみを築いた功績により受賞となりました。

1. 講師謝金や自伝書に寄せられた募金などを元に、視覚障がい者のための職業訓練学校などを2011年にモンゴル、また2015年キルギスにも設立した。モンゴルの学校については、2016年6月正式にモンゴル国営2年過程の専門学校として認定された。現在、70名の生徒が学んでいる。
2. 点字ブロックが世界で初めて敷設された岡山市郊外の交差点脇に、『点字ブロック世界発祥の碑』を建立。その後も点字ブロックを守る会の代表として、点字ブロックの歌やシール等を作成し、点字ブロックへの理解を深める活動を全国に向けて展開している。
3. 竹内氏の活動に感銘を受けた岡山市内の一般市民が中心となり、著書『見えないから見えたもの』を「未来の子どもたちにもこの感動を受け継いでいきたい」と、構想から5年をかけて映画化。“全国の小中学校の授業で使ってもらうことにより少しでもイジメや、自殺問題をなくしたい”との想いから、全国に向けて映画の普及活動を行っている。
4. 幾度となく訪問した発展途上国に僅かな治療費もないため、視覚障がいのまま放置されている子どもたちが大勢いることに気付いた。その治療費を送ることで、彼らの視力を回復させる活動を開始した。既に、モンゴルで3名、キルギスで20名の子どもたちの視力を改善させることができた。(2016年11月7日現在)



受賞のことば

ITはもつと社会をよくできる
僕は独立するときに、時間と場所に縛られないような、働きたいと本当に思う人が働ける職場づくりをしようと思って、がんばってやってきました。
そうした過程で、母子家庭や外に出ることはできないけれども働きたいという障がい者の方々を雇うことができないかと考えるようになり、自然な流れで障がい者雇用を始める格好になりました。
僕は本当にコンピュータが大好きで、誰にも邪魔されなかつたら、一日中コンピュータを触って、黙々とやりたい人間です。コンピュータとインターネットは、世の中をもつとよくすることができるといふ信念を持って、それを仕事の誇りにしています。
そこで、ふつうの会社でも本当に

人の心の温かさを 膨らませるシステム開発を目指して。

有限会社奥進システム 代表取締役 / 奥脇 学さん

働きたい人間、能力のある人間なら働けるんだという証明をしたくて、いろいろな仕組みづくりをしました。つまり現状の世の中に對して、「システム」って何か役に立っていないか？ 僕の誇りとする仕事を使って、社会のために人のために何か役立つことができないか？ と考えたわけです。
寄せられた期待に応えたい
そうした模索を通して「うえがサポ」というサポートブックを作成する無料のウェブサービスを打ち出した。福祉施設さんの業務を支援する「うえがサポ」というパッケージシステムを開発したりしました。
先ほどご紹介いただいた「SPI S」は、精神障がいの方の職場定着を支援するシステムです。気になるポイント・体調の変化を業務日報のように毎日記入すれば、その変化をグラフで視覚化でき、振り返りや支援者との意見交換に役立てることがができます。端的に言えば、人が人を気遣える仕組みづくりを応援するシステムとして、僕たちの経験、ノウハウを元に開発しました。多くのおみなさんの協力もあって、利用の輪も着実に広がっています。
こうしたシステムがどんどん作られ世の中に普及すれば、これまで以上に一般企業で、障がい者も働ける職場づくりが進むのではないのでしょうか。
これからへの期待を含めての受賞と伺っておりますので、これからも支援してくれる仲間とともに、働きたい人が働ける世の中を広げていくためにがんばっていききたいと思えます。今日は本当にありがとうございます。

父の思いを大切に生きる
私は71歳になります。その中で不運が2つありました。
一つはこの目が見えなくなったこと。もう一つは、待つて待つて生まれてきた最初の子が難産で、脳性小児麻痺という病気でした。寝たつき。言葉も出ない。そんな重い障がいを待つて生まれてきた。でも、私を育ててくれた父親の手前、これで引けるかと思ひその子を大事に育てました。が7つで死んだ。これ以上ないと思うほどの悲しみでした。
ところがそれを埋めて余りある幸運にも恵まれました。それは素晴らしい親。もう一つは素晴らしい教師に出会えたこと。三つ目は素晴らしい仲間に出会えたこと。この三つは私の人生を完全にひっくり返して、ばら色の71年に変えてくれたんです。
どんなにいい親だったか？ 今から60年以上前。当時は大抵の親が障



受賞のことば

一人5万円あれば取り戻せる視力——、 1000人の子どもに光を。

社会福祉法人岡山ライトハウス 理事長 / 竹内 昌彦さん

がい児を家の奥に隠した時代です。それなのに私の親はどこへでも連れて行ってくれました。何でもさせてくれた。馬にも乗ったし、象にも乗った。サーカスのニシキヘビの尻尾も引く張った。(笑)
父は無口で大人しい男で何も言わない人です。私が昭和39年、東京のパリンピックに出発する日、そんな父親が岡山駅のプラットホームでいいよ電車が動き出すというときに、「竹内昌彦、バンザイ——」と3回も言った。あのとき、障がい児を育て上げた親の思いが、本当に響いたんです。
日本の善意を集めた基金を
教員を退職した後は、素晴らしい仲間に出会い助けられました。まず点字ブロックの石碑を岡山市の原尾島の交差点に建てた。点字ブロックは岡山発祥なんです。モンゴルに学校も作りました。キルギスにも学校を作りしました。
そういう活動をしてきてこの賞をいただいたことで、決めたことがあります。
貧しい国の目が見えない子どもに視力を与える、回復させる手術費を送ってあげようと思います。貧しいために我が子の目を治療してあげられない親の哀しみが私には分かる。一人5万円あれば、目玉が回復するんです。日本の善意を集めて、そういう方たちに手術費を送る基金を、今回の賞をきっかけに作ります。どこまでできるか、千人ぐらいは子どもの目を見えるようにしてあげたい。
このことを私、こころではっきりと大きな声で言ひまして、感謝の言葉に代えたいと思います。



NPO法人縁活 作業所おもや (2016年10月14日)

琵琶湖から車で5分くらいのところに、耕作放棄地となっていた田んぼを借りることになった作業所おもや。全部で4反歩以上、一昨年の作付けより広がっています。一昨年の反省を活かし、苗を大きくしてから一本植え、田植えのタイミング、草取りの方法など、地元の農業のプロも仲間に加わって進めた1年間。お辞儀をするほどの実がぎっしり詰まった稲穂が黄金色に輝いていました。



黄金の稲穂が揺れた 自然栽培パーティ、 2年目の実り

(一社)農福連携自然栽培パーティが、『第4回グッドライフアワード 環境大臣賞 最優秀賞』を受賞しました。



自然栽培パーティ代表 佐伯 康人さん

昨年は、パーティの仲間も50施設に増えて、お米を作っている20施設は全部成功です。次は彼らが地域のリーダーとなって栽培指導をするようになってほしい。自然栽培パーティに参加する施設を100施設くらいに広げたいですね。



社会福祉法人 無門福祉会 (2016年10月15日)

初めての水稲自然栽培で、一昨年は佐伯康人さんから、200点満点をもらった無門福祉会。昨年5月に財団の瀬戸理事長をはじめ熊田塾メンバーも参加して田植えを行った田んぼが黄金色に変わりました。昨年は作付面積が一昨年より3倍以上の1.5町歩。「長雨を心配しましたが、お米の出来も上々!」と無門福祉会の磯部さん。地域の方も集まって稲刈りのイベントを行いました。

事業を一つに絞り込む勇氣。

多くの作業所と同じく、ワークセンターフレンズ星崎も障がい者の進路を確保する目的で1995年に発足しました。スタッフは福祉を志す大学生が中心、借家の木造民家に利用者2人からのスタートでした。以来20年余、ひたむきな創意工夫と挑戦でついに「月給5万円に王手」です。

Data

社会福祉法人ゆたか福祉会
ワークセンターフレンズ星崎
愛知県名古屋市



流れを止めずにDMの重量チェック

中身を詰めた封筒を、右側の口からテンボ良く投入すると、スーッと流れながら「自動重量検査機」が、封筒の重さを瞬く間にチェックしていきます。検査を終えた封筒はそのままベルトコンベア上を流れ、封を自動で閉じてくれる「封かん機」へ送られます。

ワークセンターフレンズ星崎は、メールの発送代行業1本で給料5万円を目指す都市型の作業所です。目標達成を強力に援護する「新兵器」として自動重量検査機を昨秋、導入しました。長3〜角2サイズまでに対応し、角2でも毎時3600通の処理が可能です。その整備費に財団の助成を活用しました。

DMの発送代行業務は、いくつもの工程から成り立っていますが、「封かん」前に欠かせない作業が「検品」です。一通一通、重さを量って内容物の過不足を確認します。

「これまで使っていた秤は手動で、正しく計測するのにしっかりと秒待つ必要がありました。でも、大量の封筒がラインに流れる中、集中力を切



らずに安定して作業しつづけるのは大変なこと。任せられる利用者さんは2人しか育ちませんでした」と、副所長の稲垣伸治さんは悩みだした事情を明かします。

自動重量検査機の導入で人員配置も見直し、2点封入なら以前は6000通/日が限界だったものが、現在では約2・5倍にまで生産量が伸びました。この新しい機械には利用者さんとも興味津々。各自の目標を達成した方から「挑戦してみようか？」という具合に、新しい機械に触れるチャンスを設けることで「目標を持って仕事を、そんな意欲にもつなげることができた」といいます。

やり方次第で障がい者だって稼げる！

作業所の発足当時から関わる山崎利浩所長は、かつてを振り返り「箱折りや、軍手の選別作業、そしてDM封入作業といった下請けを中心に、経済活動よりは生き甲斐に軸足を置いていました」と語ります。

しかし次第に人が増えてくると、各利用者のニーズに沿った事業の再編ができないかと考え

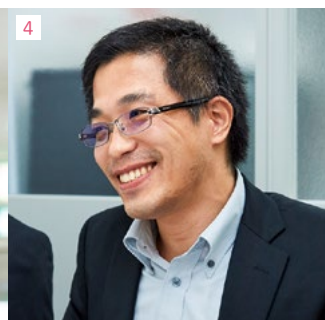


8

7



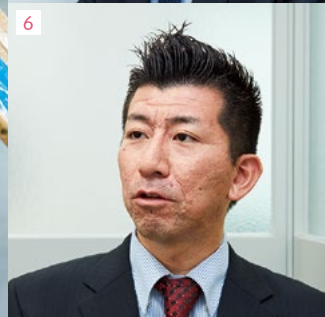
9



4



5



6

①流れるように重量を量り、設定値以外の封書を弾く自動重量検査機。手前は封かんされた完成品 ②自動重量検査機へ封書を投入 ③丁合作業のための治具。作業効率を上げるための用具をさまざまに自主製作している ④「新塾塾を修了した辺りから、現場作りと仕事の獲得、生産設備がちょうど揃いだしたところに、着実に数字が伸び始めました」と山崎所長 ⑤「DMのいいところは、クライアントが変わっても工程は変わらないということ。利用者さんは習熟しやすい」と新塾塾生の稲垣副所長 ⑥職員、利用者さんの仕事に対する本気度を見て、自ら営業職に手を上げたという主任の山田大輔さん ⑦全員揃いの作業着を着て、仕事モードに ⑧給料5万円に向かって！ ⑨新塾塾長も取材に同行

労働組合支部執行委員長 助成先訪問 Series 23

ヤマト運輸労働組合
名古屋支部執行委員長
柴田 育史 さん



いただいた元気に 私たちはどう応えるのか？

こちらにお邪魔するのは3度目ですが、ここに来ると毎回、元気をもらえます。働いているみなさんを見ると、自分がもっと頑張らなきゃって。そして福祉を生業とする人たちの志の高さ、そういうのを感じてすごうらやましくなります。

逆にヤマト運輸の社員は何ができるのかと思うと本当にカンパぐらい。あとはスワンのケーキいっぱい買おうねとか。そういうことぐらいしかできなくて。もらった以上のものを、世の中へいかにお返しできるのか。小倉イズムというものを我々、組合は大事にしていかなければいけないと思っています。



仕事の質を上げ、「直請け」を獲得

以来、他の下請けを少しずつ断り、DM発送代行業務に事業を絞ってきました。2010年から3年間は当財団「働くちから革新塾」第1期新塾塾にも参加。チャレンジャーの施設長で、革新塾の塾長である新塾塾さんからも指導を受けて、動作経済の原則やライン工程方式などを学

ぶように。そこで「重度の人も参加でき、投資もそれほど必要としない事業の柱を探して、全国何カ所かの先行事例を見て回りました」およそ15年前のことです。

視察を通して一際つく印象に残った事業がありました。東京の小規模作業所チャレンジャーが行うDM発送代行事業でした。

「うちと同じ障がい程度の人たちが6万、7万と稼いでいる。衝撃でした。励まされた感じがしたんです。やり方次第でできるんだと」

「直請けと下請けの比率は、売上ベースでまだ半々ですが、ヤマト運輸さんの2主管支店と、契約をいただきました。恩返しのためにも一歩懸命になりたいと思っています」 現在すでに給料は4万円台後半。目標の5万円は春先にも実現できそう。

しかし「これまで学んだことを、次はゆたか福祉会内で共有していきたい」そう語る山崎さんの言葉には、5万円は通過点に過ぎない。そんな思いを感じました。

この街で、
一緒に生きていく。



公益財団法人ヤマト福祉財団
障がい者のクロネコDM便配達事業

歩くチカラがついたら、 笑顔も言葉も増えていた。

山形県酒田市、JR東日本の羽越本線酒田駅から車で5分ほどの住宅街に、障がい者サポートセンター「あらた」があります。強い風の吹く日が多いという、港町の酒田市。毎日平均約30冊のクロネコDM便を、徒歩で配達しています。

酒田市東町 ●

●山形主管支店 酒田大宮センター

面積24.2km²／人口18,311人／
世帯数6,916世帯

●障がい者サポートセンター 「あらた」

2016年7月からDM便配達を開始。1日平均配達数、約30冊。他には、館内清掃、レストランの食器洗浄など。

「障がい者のクロネコDM便配達事業」

参入施設数 305施設
従事者数 1,557人（2016年10月現在）
お問い合わせは……

（公財）ヤマト福祉財団 DM便担当
TEL 03-3248-0691
FAX 03-3542-5165
<http://www.yamato-fukushi.jp/>

※ 2015年4月1日より、クロネコメール便配達はクロネコDM便配達へと変わりました。



DM便を入れたリュックを背負ってしっかりと歩く大瀧洋さん（左）と、いつも笑顔で元気なハリキリボー佐藤朋さん（右）。

全員が自分の地図に すべての配達先をマーク

毎朝、ヤマト運輸のドライバーが届けたDM便を、その日担当するメイトさんが全員で、住所別に分類。職員の大滝由佳さんと高橋ひとみさんが、一冊一冊ゆつくりと配達先の住所と名前を読み上げます。すると、全員がそれぞれの地図にその日の配

達先をマーク。そうすることで、配達しない地域のことも覚えることができます。職員が配達ルートを決め、DM便を配達順に並び替えて、仕分けは完了。配達総数を数え直して最終確認をします。最後にメイトさんが大きな声でジャンケンポン。組み合わせを決めたら、二手に別れて出発です。

歩くことで 体も心も元気に

齋藤代表理事は「とにかく歩くことが人間の基本。歩くことができれば、体も心も元気に明るくなつていきます。大切なのは歩くこと、社会と交わること。DM便配達は自立支援にまさにぴったりの仕事ですね」と話します。

メイトさんの大瀧洋さんは歩くことがとにかく苦手で、体も弱かったそうです。DM便配達を始めてから5ヶ月。ついて歩くのがやっとだった開始当時の姿が信じられないほど、速く長くしっかりと歩くことが

異業種に転職してきた 職員だから言える言葉

DM便を担当する職員の大滝さん和高橋さんは、異業種からの転職組。福祉施設で働くのは初めてです。ある日、仕事を休もうとするメイトさ



左から／仕分けする職員の大滝由佳さん、渡部千代子さん、リーダーは佐藤朋さん。



左上／地図で配達の順番を確かめながら配達します。左から／職員の高橋ひとみさん、大瀧洋さん、佐藤朋さん。
右上／手渡し配達は、仲間みんながやりたがる人気の仕事です。笑顔で届ける足立樹さん（左）。

▶宛先の住所と名前をしっかりと確認して投函する佐藤朋さん。

◀雨の日はカッパの上にユニフォームを着て出かけます。左から／みんなに気配りをするやさしい足立樹さん、職員の大瀧由佳さん、メイトさん4人で仕事をするのが嬉しい、と話す渡部千代子さん。



一人ひとりの良さを さらに良い方向へ

メイトさんの渡部千代子さんは、「次はこの家？」と配達先に興味を持つことが増えました。道ばたや家の庭先にきれいに咲く花の存在に気づいて、歩くことが楽しみに。メイ

んに、「これは代表理事からあなたが任された仕事。それなのに投げ出しているの？」と声をかけたことがありました。すると齋藤代表理事から、「そういうふうに、普通の感覚で接して欲しい」と言われたそうです。「福祉を学んだ専門職の人は、その人の病気や悩みからの対処を考えがち。一般の社会人としての感覚で、『働く』とは何かを教えて欲しいと思っています」と齋藤代表理事は話します。

もっと寄り添って 長く付き合えるパートナーに

トさんの足立樹さんは、地図を確認して間違えないように配達することを心がけています。耳が不自由で話すことが苦手だったそうですが、DM便の仕事をしてから声を発する機会が増えたとのこと。2人で組んで仕事をするのが楽しくて微笑みます。

ヤマト運輸山形主管支店 山形サービスセンター 増川一郎センター長は「すばらしい仕事ぶりに感謝しています。ヤマト運輸としても、パートナーとして長い付き合いができるようにサポートしたい」と語ります。ヤマト運輸山形主管支店 酒田支店 酒田大宮センター 伊藤貴徳センター長は「DM便スタートの際は、一緒に配達しながらこの地域を歩き



「2016年4月に、3ヶ月間限定のカフェを観光客の多い日和山公園に開きました。彼らは着物を着て呼び込みをしたんですよ。挨拶もきちんとできました。7月から始めたDM便配達でも、外で活動して人と関わることが、とてもいい影響を与えているようです。みんな明るくなって、大きな声で笑うようになりました。大瀧さんは、いつか1人で配達ができるようになりたいと言って、積極的になりました。これからもしっかりサポートしていきたい」とNPO法人「あらた」齋藤緑代表理事。



前列左から／障がい者サポートセンター「あらた」所長兼サービス管理責任者 渡部雅美さん、クロネコDM便メイト 佐藤朋さん・渡部千代子さん・大瀧洋さん・足立樹さん、後列左から／障がい者サポートセンター「あらた」前所長兼サービス管理責任者 佐藤かすみさん、職員 高橋ひとみさん、職員 大瀧由佳さん、NPO法人「あらた」齋藤緑代表理事、ヤマト運輸山形主管支店 酒田支店 酒田大宮センター 伊藤貴徳センター長・酒田支店 鈴木貴志支店長、ヤマト福祉財団東北支部 小原守事務長、ヤマト運輸山形主管支店 山形サービスセンター 増川一郎センター長

ました。わからないことはどんどん聞いてくるなど積極的ですし、今ではすっかり安心して任せています。これからも寄り添って、いい関係を築きたい」と話します。
ヤマト運輸山形主管支店 酒田支店 鈴木貴志支店長は「酒田の冬は、雪は積もりませんが、風が強くてホワイトアウトになるほど吹雪く日があります。これからの配達は大変。体調と事故に気をつけて業務を続けて欲しい」と結びました。

「あらたは、『新しい』と『改める』の2つの意味があるそうです。ヤマト運輸のユニフォームを着ると、シャキッと仕事モードに切り替わるといふメイトさんたち。いろいろと工夫し、改めながら、今日も元気にまちの中へ。新しい一歩を踏み出しています。

公益財団法人がん研究会有明病院／2016年1月、全700床の病院棟に、地上4階・地下1階の新棟も完成し、より充実したわが国初のがん専門病院です。ここで働く障がいのある方は22名、雇用率は2.6%(2016年11月現在)となっています。



「大好きな仲間と一緒に働けるこの職場に入れて良かった」と笑顔の上田さん(左から4人目)

看護助手の仕事をサポート 時には患者さんから感謝の手紙も

上田さんは、病棟で働く看護助手をサポートするチームの一員です。時には患者さんから感謝の手紙が届くこともあり、仕事を頑張るよいモチベーションになっています。

■ヤマト自立センター スワン工舎羽田 就労に必要なスキルの習得はもちろん就労先の開拓からジョブコーチによる就労後のサポートまで一貫したプログラムで、障がい者の自立支援に取り組んでいます。

「院内感染防止などに配慮し、衛生管理や身だしなみは毎日厳しくチェックします。チーム

「当院は手術・入院・退院のサイクルが早い急性期の病院です。700床もありますから毎日のベッドメイクだけでも大変な量で、看護助手はいつも業務に追われています。上田さんは、そんな看護助手の業務をお手伝いするワークサポートチームの一員です」と人事部の西田尚美さん。障がいのある方たちで結成されたワークサポートチームは、病棟の清掃、ベッドの清掃やメイク、点滴で使うテープや患者さんの身体を拭くタオルの準備、さらに入院時に必要な書類の印刷、製本など、さまざまな仕事を担当しています。

「自分もがん研有明病院の一員」という意識をチーム全員が持つてほしい



ベッドメイクのノウハウもマスター。随分と手際もよくなりました

外来で使用する簡易エプロンも取りやすくセットすることで、業務の時間短縮に

上田 遼さん がん研有明病院(平成28年2月1日入社)

給料をもらおうと気楽に電車で外出できるようにICカードをチャージ。「休日には友人に会うためスワン工舎を訪ねたり、横浜などをぶらりと散策したりします」。

「チームに対する院内の評価は高く、担当する仕事の種類も増えました。中には納品された薬剤を所定の棚に並べるなど慎重な仕事もあります。西田さんは、各人の個性や指示出しのコツなどをまとめたシートを作成し、各部署との連携を図っています。「配属先と密に情報交換を行い、彼らをサポートするのが私の役目です。チームの活躍の場を広げ、障がいのある方が『医療』の現場でも力となって、チーム医療を支える一員として頑張っています」。

次第にチームの人数も増えて控室も大きくなりました。上田さんは「控室でチームの仲間と話すのが楽しみの一つ。みんなやさしくていい職場です」と笑顔で話しています。

ム全員が、自分もがん研有明病院の一員だと自覚し、業務に励んでほしいですね。そんな意識が芽生えたからか、最近の上田さんの成長は目覚ましいと西田さんは評価しています。

上田さんも業務をはじめて半年が経ち「これからは先輩に頼らず責任をもって仕事をすること」発言。以来、自分の仕事を終わると「仲間を手伝いましょうか? 次の仕事を始めましょうか?」と自発的に考え行動するようになりました。「ルーティンを理解し、やるべきことを先読みできていますね。新しい実習生の先輩として手本になろうとしているその姿勢を頼もしく感じています」と西田さん。



「時にはみんなで飲みに行き、職場では話せないグチや要望も気軽に言い合えるようにしています」と西田さん

クロネコDM便配達本人による特別報告会

クロネコDM便配達事業では、クロネコDM便を配達する施設が全国に305カ所、約1,550名の方が活躍されています。その中から地元で『クロネコDM便配達本人による特別報告会』開催を希望する施設を公募。ご応募いただいた2施設の報告会です。

NPO法人つくし野会 **もりの実**（奈良県北葛城郡広陵町）



もりの実は11月26日広陵町グリーンパレスで報告会を開催し、67名が参加しました。平成27年2月からクロネコDM便配達を開始し、4名のクロネコメイトさんが暑い日も寒い日も雨の日も、どんな天候にも負けずに日々の配達をがんばっています。

報告会ではそれぞれクロネコメイトさんが、日々の配達の様子をスライドで上映しながら、仕事への責任感、やる気、自信、達成感などを自分たちの言葉で来場者に伝えました。



NPO法人花の会 **メールサービスおからや**（山形県鶴岡市）



メールサービスおからやは、11月19日に鶴岡市勤労者会館で報告会を開催しました。クロネコDM便配達を始めて10年になり、現在は7名のクロネコメイトさんが、7町内で月平均約4,000冊のクロネコDM便を配達しています。

当日はたくさんの方が集まり、メイトさんたちが卒業した学校の教頭先生も参加してくださいました。クロネコDM便の配達は大変なこともあるけれど、大好きな仕事なのでこれからもがんばっていききたいと、自分たちの言葉で思い思いに報告しました。



夢へのかけ橋実践塾活動報告

第2回新堂塾（第3期）

10月7日（金）・8日（土）

【東京都・（社福）武蔵野千川福祉会】

塾長施設を見学。

利用者さんの働くちからを伸ばす、塾生の実践が始まりました。



数が得意な利用者さんの仕事をフォローする治具に驚く塾生たち（ワークイン関前）



利用者さんが行う封緘の仕事を塾生がやってみました！（チャレンジャー）

第3回 5万円必達塾

10月21日（金）・22日（土）

【群馬県・（社福）ゆずりは会】

塾生施設で

見学勉強会も併せて開催。
残り1年で給料5万円達成へ。



榛名山の麓で2ヘクタールの畑にタマネギやブロッコリー、枝豆の栽培を行う『ゆずりは会』を見学しました



5万円必達のために、振り返りと今後の動きを確認しました

第5回熊田塾

12月22日（木）・23日（金）

【和歌山県・（社福）有田つくし福祉会】

ミカン収穫の最盛期を迎える現場を見学。塾生施設の仕入相互販売も実績が見えてきました



昨年9月に山形県鶴岡市の愛光園で開催された見学・勉強会



早月農園のミカン畑は1.5ヘクタールの急斜面。雨のため、収穫のお手伝いはできませんでしたが、塾生の仕入相互販売につながります。



フィンランド独立100周年記念 フィンランド・デザイン展



ポスター《自然保護団》
エーリック・ブルーノ／1974年
作家蔵 © Erik Bruun



椅子《41 アームチェア パイミオ》
アルヴァ・アアルト／1931-1932年／アルテック
個人蔵 © Artek



テーブルウェア《Kiltaシリーズ》
カイ・フランク／1953年／アラビア
フィンランド・デザイン・ミュージアム蔵 © Designmuseo

フィンランド・デザインの全貌を展示

『森と湖の国』、フィンランド。夏は白夜、冬は極寒の厳しい環境下にありながら人々は自然とともに生き、その生活の中で楽しみを見いだしてきました。フィンランドのデザイナー達も創造の源には『自然と人間の調和』があります。日常の食器や家具など、身近な自然やその環境に影響を受けて生み出されるシンプルなデザインや、冬の暗い期間を振り払うかのような明るい色彩に特徴があります。

フィンランド独立100周年を記念して開催される『フィンランド・デザイン展』は、19世紀末から現在まで、フィンランドの実際の日常生活で使用されている食器や家具、服飾、グラフィックや陶器製レリーフ、ガラスのオブジェなど、フィンランド・デザインの移り変わり、全貌を紹介いたします。

企業ブランドや各時代のデザイナーにこだわった展示

「Iittala」（イッタラ）、「Artek」（アルテック）、「Marimekko」（マリメッコ）など、フィンランドの有名なデザインブランドを確立した企業が担ってきた役割を紹介するとともに、各時代のデザイナーたちに焦点をあて、様々な素材によって表現された彼らの特徴的な作品とその人物像にこだわった展示をします。

アルヴァ・アアルトやエーロ・アールニオなどによる名作椅子を体験できるスペース、トーベ・ヤンソンの書籍やスケッチはムーミンファンにも見逃せない展示となるでしょう。

本展の美術品取り扱いにヤマトロジスティクス株式会社は協力しています。

DATA

- 開催期間 ▶ 2017年1月14日(土)～3月20日(月・祝)
- 休館日 ▶ 毎週月曜日
※月曜日が祝祭日の場合は開館し、翌平日休館
- 開催場所 ▶ 福岡市博物館
- アクセス ▶ 市営地下鉄
博多駅から約13分、天神駅から約7分の西新駅(1番出口)より徒歩約15分
西鉄バス
《博多駅から》博多バスターミナル1F5番・6番のりばから約25分―博物館北口または福岡タワー南口下車徒歩約5分
《天神から》天神バスセンター前1Aのりばから約20分―博物館北口、博物館南口または福岡タワー南口下車徒歩約5分
- 開館時間 ▶ 9:30～17:30
※入館は閉館の30分前まで
- 観覧料 ▶

	一般	大学生・高校生	中学生・小学生
当日	1,400円	800円	500円

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳(以上の手帳を提示した人の介護者1人を含む)、特定疾患医療受給者証、特定医療費(指定難病)受給者証、先天性血液凝固因子障害等医療受給者証、小児慢性特定疾病医療受給者証を提示の場合は無料

- 主催 ▶ 福岡市博物館、TVQ九州放送、西日本新聞社、日本経済新聞社
- 協賛 ▶ 大伴社、JTB九州
- 後援 ▶ フィンランド大使館、フィンランドセンター、北九州フィンランド名誉領事館、福岡EU協会、福岡県、福岡県教育委員会、福岡市教育委員会、福岡市文化芸術振興財団、西日本リビング新聞社、FM FUKUOKA、cross fm、LOVE FM、西日本鉄道、九州旅客鉄道、福岡市タクシー協会、一般社団法人日本旅行業協会、西日本新聞TNC文化サークル、西日本文化サークル連合
- 特別協力 ▶ フィンランド政府観光局、日本フィンランド協会、アルテック、イッタラ(フィスカス・グループ)、スキャンデックス、タトル・モリエイジェンシー、マリメッコ社、ルック
- 協力 ▶ フィンエア、フィンエアーカゴ、子ども文化コミュニティ、YOSHINOBU
- 企画協力 ▶ キュレイターズ
- 問い合わせ先 ▶ 〈福岡展〉TEL：092-845-5011/FAX：092-845-5019
ホームページ：http://finnish-design2017.exhn.jp
- 巡回情報 ▶ 愛知県美術館 2017年4月7日(金)～5月28日(日)
福井市美術館 2017年7月22日(土)～9月3日(日)
府中市美術館 2017年9月9日(土)～10月22日(日)
宮城県美術館 2017年10月28日(土)～12月24日(日)

ご協力ありがとうございました

スワンのクリスマスケーキ



昨年12月に販売したスワンのクリスマスケーキは、108,974個となりました。
全国のヤマトグループのみなさま、ご協力をありがとうございました。
これからもみなさまに喜んでいただける商品をお届けしていきます。
ありがとうございました。

株式会社スワン



賛助会員が72,680人に

ヤマトグループで働く社員のみなさまに、ヤマト福祉財団の目的や趣旨にご賛同いただき、賛助会員が昨年7月より8,398人増え、72,680人となりました。

財団は、障がいのある方の自立と社会参加に関する活動に幅広い援助を行い、障がいのある方が健康的で明るい社会生活を営める環境づくりに貢献することを目指し、ヤマトグループ企業理念にある障がい者支援を推進してまいります。これからもご協力をよろしくお願いいたします。

